

学校便り

第360号
平成28年9月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

あの日から2000日

校長 鈴木 隆志

夏休み最終日の8月31日は、東日本大震災から2000日の節目の日でもありました。この夏、私は、『あまちゃん』（平成25年度NHK連続テレビ小説）の舞台を旅してきました。三陸鉄道・北リアス線（宮古ー久慈）にも乗りました。北リアス線では、震災発生時に久慈発宮古行きの列車が15名の乗客を乗せて走行していました。列車は、白井海岸駅ー普代駅間の山中で緊急停止します。下本運転士^{*1}の適切な判断と指示により、5時間後に乗客は全員避難所に避難することができました。普代駅の二つ先の島越駅は、津波により跡形もなく流出していました。沿線にある下閉伊郡岩泉町の小本小学校では、全校児童88名が、130段の避難階段^{*2}を駆け上り、津波からの難を逃れました。この避難階段は、震災の二年前に完成したものでした。震災後、昨年12月には、岩泉町小本地区の新たな防災拠点として、北リアス線の岩泉小本駅舎を兼ねた小本津波防災センターが完成しました。役所支所、大津波資料室、防災備品庫、避難施設、診療所等が入った3階建ての防災センターです。

北海道旭川を中心とした『君の椅子』プロジェクトというものがあります。子供が誕生した喜びを地域全体で分かち合い、子供たちの居場所を作りたいという思いから始められたプロジェクトです。その年に生まれてきた子供たちに、世界にたった一つだけの『君の椅子』を贈る活動です。震災後、プロジェクトの代表である磯田さんは、平成23年3月11日に生まれた子供たちに『君の椅子』を贈ることを発案します。岩手・宮城・福島三県の全128市町村で調査した結果、104名の新たな“いのち”が誕生していたことが分かりました。名前とともに、「3月11日」「希望の『君の椅子』」「たくましく未来へ」と刻印された『君の椅子』は、「生まれてくれてありがとう」のメッセージを添え、一人一人に直接手渡されていきました。多くの人命が失われ、日本中が震撼した3・11に、東北の地で生を受けた新たな尊い“いのち”の誕生には、想像を絶する親たちの思いがありました。『3・11に生まれた君へ』（北海道新聞社・福島民報社・河北新報社・岩手日報社合同発行）は、未曾有の事態の中、多くの人たちの温かい助けを受けた31の家族の手記集です。体験した者のみが記すことができる生々しい震災時の様子、生まれた我が子への愛情と感謝の気持ち、また親としての複雑な心境が綴られています。同じ日に母親を亡くして子供の誕生を素直に喜べなかったという人、友達夫婦を亡くしたと泣きながら語る人、一生「3・11の子」と言われるのは切ないから出生届を別の日にしようかとまで考えた人…、親たちの葛藤が語られています。「誕生日は、いつも追悼の日でもありますが、『君の椅子』という決して忘れないプレゼントと、多くの人たちが応援してくれた気持ちを糧に、成長をお祝いしていきたいと思います。」手記に記された言葉です。

あの日生まれた子供たちは、来年4月には小学校入学です。大震災を語り継いでいくこと、生命の尊さを伝え続けていくことは、私たち大人の使命です。本校2年生の子が、漢字の短文作りの学習で熊本地震へ思いを寄せた文を作り、親としても我が子の成長に改めて嬉しさを感じたという連絡帳をいただいたことを思い出しました。光っ子たちには、人の痛みが分かる優しさと困難にも立ち向かう逞しさを持ち、これからの時代を生き抜く力を身に付けさせていきたいと願っています。

*1 私が乗車した列車の運転士が、偶然、下本運転士でした。終着駅で降りたあと、お話をさせていただいてきました。

*2 私も実際に130段の避難階段を上ってみました。小本小学校は今年4月、高台に移転し、新校舎となりました。